

なからぎ

216号

2017年1月

新年に「時」を想う

学長 築山 崇

年越しをみなさんはどのようにお過ごしだったでしょうか。新年を迎える瞬間、誰もが、時の流れを実感すると思います。人類の時間への関心の切実さは、太古の昔から天体の動きや、砂・水などの“道具”の利用によって時を計ろうとしてきた営みにも見ることができます。私たちが存在しているこの世界は、まずは、3次元の物理空間として、さらに時間軸が加わって、4次元の時空間としてとらえることができます。今日私たちは、空間をかなりな程度自由に移動する手段を得ていますが、時の流れの中を移動する術はなく、過去から未来への一方向の流れに身を任せるよりありません。

SF好きの少年にとって何よりの魅力は、宇宙旅行と時間旅行でした。筆者にとって印象深いのは、SF界の巨匠ロバート・A・ハインラインによる『夏への扉』です。中学生期に読んだものは、その子ども向け翻訳『未来への旅』でした。タイムマシンで過去にさかのぼり、人生を“修復”し、冷凍睡眠によって再び“現在”に戻って、最愛の女性との時を超えた愛を成就させるというストーリーは、まさに夢のような世界でした。

さて、初老期を迎えた“いま”、SFから哲学へとジャンルは移り、心に響くのは、「自らの死を自覚し、あらためて生の意味を問い直し、未来の可能性に向けて自らを「企投（投企）する」という「先駆的決意性（覚悟性）」という概念（M.ハイデガー『存在と時間』）となりました。

『存在と時間』での基軸となる視点は、もっぱら「死」に向けられています。しかし、「誕生」にも視点を据えた存在論的な議論としては、西平直が『誕生のインファンティア』で行っている、「気づいた時には既に“自分”がいた」という“不思議”についての考察があります。

昨年来この西平の著書に導かれて、J.アガンベン『幼児期と歴史』、ハンナ・アレント『人間の条件』九鬼周造『人間と実存』などを手掛かりに、自分なりに存在と時間への思索を深めようと試みてきましたが、自分の固有のこだわりと思っていた問いが、先人たちの知的格闘の対象でもあったという確認に未だとどまっています。（つきやま たかし）

『夏への扉』（ハヤカワ文庫）ロバート・A・ハインライン著；福島正実訳 早川書房 46刷 1998.7刊（請求記号933.7 H）、『存在と時間 上・中・下』（岩波文庫）ハイデガー著；桑木務訳 岩波書店 1960.11～1963.2刊（山本文庫134.96 H 1～3）、『誕生のインファンティア：生まれてきた不思議、死んでゆく不思議、生まれてこなかった不思議』西平直著 みすず書房2015.4刊（請求記号114.2 N）、『幼児期と歴史』ジョルジョ・アガンベン著 岩波書店 2007.1刊（請求記号201.1 A）、『人間の条件』（ちくま学芸文庫）ハンナ・アレント著 筑摩書房 1994.10刊（請求記号114 A）、『人間と実存』（『九鬼周造全集 第3巻』所収）九鬼周造著 岩波書店 1981.1刊（請求記号121.6 K 3）は、2階閲覧室入口に配架していますので、御利用ください。

「地に呪われたる者」との再会

図書館運営委員 牛 田 一 成

2000年代にはいつから、アフリカで野生動物の食物や腸内細菌の研究を始めるようになった。野生動物の保護や環境の保全という大きな目標はあるが、彼らの「謎」や「不思議」を解明したいからでもある。人類の祖先や家畜の祖先の形質を残す彼らの「謎」や「不思議」は、生物としての人類の過去を明らかにし、未来を照らしてくれるかもしれないと思ったからだ。間接的でバーチャルなものではなく、実体を持って眼前に現れる「リアル」にもとづいた研究をしたいと思ったからでもある*。当たり前のことだが、対象となる野生動物は、都市の中に住んではいないので、ゴリラやチンパンジー、マルミミゾウやカワイノシシなどの場合は熱帯雨林の稠密な森の中にわけ入ることになるし、フェネックキツネやバーバリーシープ、ハイエナやシマウマ、ハネジネズミのような動物の場合は、サバンナや乾ききった朱い砂漠の中に入り込むことになる。

こうした研究は、アフリカの中でもひときわ辺境の土地で実施しているので、日々つきあうことになる人々は、首都の大学や役所から派遣される共同研究者を除くと権力機構から（エスニックに）疎外された貧しい村人たちばかりになる。そこで目にするものは、住人が国を支配する民族と異なるために、あからさまにうち捨てられた土地やアフリカに利権を持つ大国が背後に潜むテロや内戦の傷跡だらけの土地である。川や浅い井戸しかなくて、きれいな水が手に入らない村々、押し寄せる砂漠の砂になすすべなく押しつぶされようになった村々、そして長い戦闘で社会インフラが破壊され、致命的な伝染病が猖獗を極める村々である。それでも、そこには、明日

は死んでしまうかもしれないそんな日常の中で、川でエビを捕って屈託のない笑顔を見せる子供たちがいるし、灼熱の砂漠の中でラクダとヒツジを飄々と追っている子供たちがいる。

「地に呪われたる者」と再会したのは、そんな日々の中だった。著者のフランツ・ファノン¹は、医師として赴任したアルジェリアで民族解放戦争に身を投じた人物で、60年代に始まった第三世界論の基盤を形成した思想家の一人でもある。「地に呪われたる者」は、翻訳されたものを大学に入った頃にずいぶん読み込んでいた。

サハラ砂漠のブレジナというオアシスの周辺で野生のヒツジを探していたら、イスラムテロ警戒中の憲兵隊に見つかって、滞在中のエルバヤデ生物資源研究所に乗り込まれた挙げ句、研究許可書があるにもかかわらずアルジェリア国立生物資源研究所の先生もろとも首都のアルジェまで護送されてしまった（我々の安全のためだったらしい）。そうしてサハラ砂漠から戻った5月のある日、アルジェのカスバ地区にある古いホテルから海岸沿いにチェ・ゲバラ通りを歩いていた。礼拝の時間になると背後の丘に作られた大小様々なモスクから発せられたアザーン²が不思議な和音となって、雲ひとつない真っ青な地中海に向かって殷々と鳴り響く。モスクに向かう人混みとともに階段を上っていくと、坂の上のアブデルカデル広場に面してちょっとした本屋があった。中に入ると、アラビア語書籍が目立って多く、フランス語の本は実用書が多い印象だった。2階に上がる階段下の小さなスペースに、それはあった。

乱雑に平積みされた本の中に「LES

DAMNES DE LA TERRE」の背文字が見えた。「あ!」、と思って手に取ってみると、やはりフランツ・ファノンだ。300円ほどの値段で印刷も悪いが、そもそもこの本の名声を一段と高めたジャン＝ポール・サルトルの序文がついていない。版が違うのか、コピー本なのか。帰りの飛行機の中で読み始めると、内容がよみがえってくる。家に戻って「地に呪われた者」「黒い皮膚・白い仮面」「アフリカ革命にむけて」を本棚の奥から探し出す。線を引いている文言、書き込みの文字に18歳の自分がいきなり立ち現れて赤面する。

18歳の自分にとって、ファノンが言う〈植民地化された世界〉、つまり〈建設されぬがよい橋〉や〈引き裂かれたアイデンティティ〉、が理解できていたとは今更ながらに思えないのだが、40歳を過ぎてから仕事を始めたアフリカで目にする事柄は、支配され搾取される〈原住民〉についても、彼らにとっての直接の支配者である都市の官吏(ファノンの言う〈民族ブルジョワジー〉)についても、外国の援助で建設される港も道路も橋も井戸も、ファノンがこの本を書くにいたった1950年代のそれと何ら変わりのないことを、延々と見せつけてくるのであった。

森の中での生活で、時として露わになる呪術と魔術が支配する日常は、本来の怒りが抑圧され呪術や憑依に転化されるという〈植民地化された世界〉の〈原住民〉の日常のままだるように見えた。支配民族に属する首都の研究者が、悪霊をつれて神聖な森に入り込んだので、悪霊払いの儀式が遠方から高名の魔術師を呼んで施されたりもする。共同研究者として触れあうことの多かった大学教員や国立研究所の研究者たちが、深くつきあうにつれて、問わず語りに語る本音からうっすらと立ち現れる彼らの意識や精神のありようが、ファノンの著作から半世紀以上が経過した今でも、彼の言う〈引き裂かれた不安定な精神

状況〉から脱却できていないように見えることは、衝撃的でさえあった。

こうした状況を固定化する企みの基となる民族、氏族、家系にもとづく分断と対立は、〈植民地主義者〉によって巧妙に仕掛けられた罠であるように思えるのだが、単なる初老の生物学者としてその現実の前に立つ自分は、そうした現実を前にしていったいどうしたらよいのだろうか。18歳のころの自分であれば、本に書かれた世界が現実のものとして眼前に立ち現れたら今とは根本的に違う道に進んでいったかもしれない。すでに単なる生物学者になってしまった大人の自分の場合、いったい何ができるのだろうか。もちろんナイーブに振る舞うことが得策なのだろう。アフリカの人々は、元来、優しいので、自分探しにやってくる先進国の無力な若者たちにだって、とても寛容である。援助団体から派遣されて自分勝手な環境教育を施しにやってくる若者に対しても、(話の終わりに何かをもらえるのであればだが) 数時間は続く彼の退屈な話につきあってもくれる。井戸を掘ってくれるならどうぞやってくれたまえということになるし、建てるというなら小学校を建ててくれてもいいぞ、土地はここにあるという具合だ。しかし、〈建設されぬがよい橋〉というのは、どういうことなのか。逆に建設されるべき橋とは何かについて、今、自分がアフリカで進めている複数のプロジェクトをどのようにすれば建設されるべき橋にできるのかをずっと考えている。書きたいことは、まだたくさんあるが、紙幅が尽きた。

* 『ゴリラの森でうんちを拾う』牛田一成著参照

** 礼拝を呼びかける声明

(うしだ かずなり：

生命環境科学研究科教授)

『地に呪われた者』フランツ・ファノン著 みすず書房 1996.9刊(請求記号316.84 || F)、『ゴリラの森でうんちを拾う：腸内細菌学者のフィールド・ノート』牛田一成著 アニマル・メディア社 2012.6刊(請求記号480.4 || U)は、2階閲覧室入口に配架していますので、御利用ください。



府大生の読書傾向

～ 2016 ～



年の始めの恒例ベストリーダーです。

今年度は、貸出冊数がどんどん増えていきます。2016年12月末現在で昨年同期より1,602冊多い19,062冊。

しかし、出足から好調だったわけではありません。4月5月6月は、昨年度よりマイナスという状況でした。6月中頃には250冊以上マイナスだったのに、7月中旬の前期試験を目前に控えた頃から貸出冊数が日に日に増加し、7月14日以降プラスに転じました。その後、後期に入ってもその勢いは鈍っていません。この調子で、学生さん達の読書が深まり、拡がることを願っています。

順位	タイトル/著者	請求記号 所在は() 以外は 府大:開架
1	史記2 (新釈漢文大系:)/[司馬遷撰]/吉田賢抗著	222.03 S 1
2	夜は短し歩けよ乙女(角川文庫)/森見登美彦[著]	913.6 M
2	火花/又吉直樹著	913.6 M
4	ストーリー・セラー (幻冬舎文庫)/有川浩[著]	913.6 A
5	ディズニーの魔法 (新潮新書)/有馬哲夫著	778.77 A
6	量子化学入門3訂 上/米澤貞次郎[ほか]共著	431.27 Y 1
6	タンパク質計算科学:基礎と創薬への応用/神谷成敏[ほか]著	464.2 K
8	何者/朝井リョウ著	913.6 A
9	化学(木材科学講座:4)/城代進, 鮫島一彦編	657.08 M 4
9	アメリカ文学入門/諏訪部浩一責任編集	930.29 S
9	京都地名の由来を歩く(ワニ文庫)/谷川彰英[著]	291.62 T
12	Essential 細胞生物学/Bruce Alberts[ほか]著/青山聖子[ほか]訳	463 A
13	量子化学入門3訂 下/米澤貞次郎[ほか]共著	431.27 Y 2
14	蒙求 上 (新釈漢文大系)/[後晋・李滉原著]/早川光三郎著	082 S 58
14	昆虫の生物学 第2版/松香光夫[ほか]著	486.1 K
14	博物館情報・メディア論*博物館経営論(新博物館学教科書. 博物館学:3)/大堀哲, 水嶋英治編著	069 H 3
17	吸光・蛍光分析(分析化学実技シリーズ:機器分析編:1)/井村久則[ほか]著/日本分析化学会編	433.08 B 1
17	日本の大課題子どもの貧困:社会的養護の現場から考える(ちくま新書)/池上彰編	369.43 I
19	講座『マイ・フェア・レディ』:オードリーと学ぼう、英語と英国社会/米倉緯編著	778.253 Y (備大:備大コーナー)
19	カントはこう考えた:人はなぜ「なぜ」と問うのか(ちくま学芸文庫)/石川文康著	134.2 I
21	応用昆虫学の基礎/中筋房夫[ほか]著	486.1 O
21	木材化学:基礎と応用/E. スヨストローム著/近藤民雄監訳	658.3 S
21	京都町触集成 第1巻/京都町触研究会編	322.15 K 1

順位	タイトル/著者	請求記号 所在は() 以外は 府大:開架
21	一般化学(大学への橋渡し)/芝原寛泰, 斉藤正治共著	430 S
25	タンパク質の立体構造入門:基礎から構造バイオインフォマティクスへ/藤博幸編	464.2 T
26	Nのために/湊かなえ著	913.6 M
26	サラバ! 上/西加奈子著	913.6 N
28	有機化学演習:基本から大学院入試まで/山本学, 伊与田正彦, 豊田真司著	437 Y
28	住宅・インテリアの教科書:世界の巨匠に学ぶ建築デザインの基本/鈴木敏彦, 松下希和, 中山繁信著	527.1 S
28	京都ざらい(朝日新書)/井上章一著	361.42 I
31	中検3級問題集 2014年版/日本中国語検定協会編	820.79 C
31	公共政策学とは何か(BASIC 公共政策学:1)/足立幸男著	301 B 1
31	大学1・2年生のためのすぐわかる有機化学/石川正明著	437 I
31	基礎化学実験 改訂第3版/広島大学総合科学部化学系編	432 H
31	リグニン利用の最新動向(新材料・新素材シリーズ)/坂志朗監修	658.4 S
31	岩波講座日本歴史 第4巻:古代4/大津透[ほか]編集	210.08 I 4
31	公共政策学の基礎 新版(有斐閣ブックス)/秋吉貴雄, 伊藤修一郎, 北山俊哉著	301 A
38	源氏物語1(新編日本古典文学全集)/[紫式部著]/阿部秋生[ほか]校注・訳	918 N 20
38	独検合格単語+熟語1800 改訂版/在間進, 亀ヶ谷昌秀共著	844 Z
38	源氏物語1(新潮日本古典集成)/[紫式部著]/石田稷二, 清水好子校注	913.36 I 1
38	新 TOEIC TEST 出る順で学ぶボキャブラリー990/神崎正哉著	830.79 K
38	第二言語学習と個別性:ことばを学ぶ一人ひとりを理解する/津田塾大学言語文化研究所言語学習の個性研究グループ編	807 T

具体的なタイトルは、下記のとおりです。これは昨年2016年1月から12月の間に貸出の多かった上位約50タイトルをリストにしたものです。

上位はここ数年と同じような傾向のタイトルが並んでいます。『史記』や『蒙求』といった新釈漢文大系の中のタイトルに、ベストセラーの小説、各学部の基本図書に、TOEICなどの語学検定の問題集。

今年は、上位ではありませんが、京都関係の図書のタイトルがちらほらと見受けられます。そういえば、春頃には「京都について書かれた本はありませんか?」とカウンターで質問される学生さんが例年以上に多かったような気がするなあと、ベストリーダーのタイトルを見てあらためて思っています。

さて、図書館は今の場所で利用してもらえるのはあとわずか。来年度春からは、稲盛会館の東側に新しく建った「京都府立京都学・歴史館」の中で開館します。雰囲気が大きく変わりますが、うまく活用してください。

2月13日(月)から移転準備のために閉館をし、ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いします。

順位	タイトル/著者	請求記号 所在は()以外は 府大:開架
43	図説古代エジプト人物列伝/トピー・ウィルキンソン著/内田杉彦訳	242.03 W
44	新しい量子化学:電子構造の理論入門 上/A. ザボ, N.S. オストランド著	431.19 S [1]
44	蝦夷と東北戦争(戦争の日本史:3)/鈴木拓也著	210.08 S 3
44	自負と偏見(新潮文庫)/ジェイン・オースティン[著]/小山太一訳	933.6 A
47	土壌学の基礎:生成・機能・肥沃度・環境/松中照夫著	613.5 M
47	京都の地名検証:風土・歴史・文化をよむ/京都地名研究会編/明川忠夫[ほか]編集委員	291.62 K
47	アメリカ名詩選(岩波文庫:)/亀井俊介, 川本皓嗣編	931 K
47	少子社会日本:もうひとつの格差のゆくえ(岩波新書)/山田昌弘著	334.31 Y
47	最新応用昆虫学/田付貞洋, 河野義明編/嶋田透[ほか]著	486.1 T
47	京都鴨川探訪:絵図でよみとく文化と景観/西野由紀, 鈴木康久編	291.62 N
47	1駅1題新 TOEIC TEST 読解特急[1]/神崎正哉, TEX 加藤, Daniel Warriner 著	830.79 K 1
47	新 TOEIC テスト900点突破 20日間特訓プログラム/小山克明著	830.79 O
47	悪意(講談社文庫)/東野圭吾[著]	913.6 H
47	無名草子(新潮日本古典集成)/桑原博史校注	918 S 18
47	解決策を考える(岩波新書 子どもの貧困:2)/阿部彩著	367.61 A 2
47	宮脇檀住宅設計塾(眼を養い手を練れ:[1])/宮脇塾講師室編著	527.1 M
47	地方公務員になるには(なるには Books:65)/井上繁編著	318.3 I (備付図書コーナー)
47	ティファニーで朝食を(新潮文庫/カポーティ[著]/村上春樹訳)	933.7 C
47	住宅設計と環境デザイン/小泉雅生著	527.1 K
47	海の見える理髪店/荻原浩著	913.6 O

春休み貸出のお知らせ

学部生、院生の貸出冊数が
12冊に増えます!

※大学院生と4回生は、プラス1ヶ月6冊も含めて18冊借りられます。

返却予定日は

◆**在学生** **4/7 (金)**

◆**卒業修了予定者**

2/28 (火)

※内部進学等で4月以降も在籍される方は4/6(木)に変更しますので、お申出ください。

図書館閉館中の図書の返却は、返却ポスト(今の図書館の西側、煙コーナー付近)をご利用ください。

※順位欄の数字が白文字は、学生希望図書。
(学生希望図書としてリクエストされたものでも、図書館費で購入したり、寄贈を受けたものは、このリストでは学生希望図書になっていません。)

※順位欄の網掛けは、新入生ゼミ課題図書。

臨時休館のお知らせ

京都府立京都学・歴彩館への移転について

京都の文化・学習交流の新拠点である「京都府立京都学・歴彩館」が、去る12月23日(金)に1階の「交流フロア」のみ一部オープンしました。1階には、京都学ラウンジ・研究室、大小ホール・展示室、ほっとスペースなどがあります。

京都府立大学附属図書館が移転するのは2階の「探求フロア」でして、旧府立総合資料館の所蔵する京都に関する資料が配架された「京都資料配架スペース」とともに、平成29年春にグランドオープンの予定です。

現図書館は、ホームページや掲示でお知らせしておりますとおり、後期定期試験の終了後から臨時休館し、現図書館が所蔵している20万冊を超える図書、約2,000種の学術雑誌等の資料全てを新図書館となる京都学・歴彩館に移転します。

この作業に一ヶ月以上を要し、移転後の資料整理、新館のシステム検証、府民貸出など新たなサービスへの準備などにも一ヶ月程度かかる見込みです。

3月以降、新館がオープンするまでの間は図書返却以外の全てのサービスを停止して、資料移転・開館準備を行いますので、利用者の皆様には大変ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力をいただきますようお願い致します。



〈京都府立京都学・歴彩館〉

カレンダー

開館時間

9:00~ 21:00	9:00~ 17:00	休館 土日祝 移転準備
----------------	----------------	-------------------

☆閉館時の図書の返却は、図書館西側(喫煙コーナー付近)の返却ポストをご利用ください。

2017年1月							2017年2月							2017年3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4							
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	ご迷惑をおかけしますが、 ご理解とご協力をお願いします。						
15	16	17	18	19	20	21	新館移転準備のため休館します。 (平成29年春、京都府立京都学・歴彩館2階に開館予定)													
22	23	24	25	26	27	28														
29	30	31																		

★1/17(火) 冬休み貸出返却予定日



★1/30(月)～ 春休み貸出開始

学部生、大学院生貸出冊数 12冊
返却予定日 在学生 4/7(金)
返却予定日 卒業(修了)予定者 2/28(火)

